

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のくわくわくド探立てくら

国立市立国立第七小学校

平成30年1月26日 NO.92 (492)



オー君 「あれあれ？また何か4年生がやっていますね。」

花ちゃん 「この前のシロダモの葉っぱは実験の続きですね。」

モンタ博士 「そうだね。その前に、ここでちょっと復習だけど、木の種類について、お勉強したことを思い出してほしいのさ。」

花ちゃん 「木には、いつも葉っぱをつけている常緑樹と、秋に葉っぱを落とす落葉樹があるということですね。」

モンタ博士 「そうだね。シロダモも1年中葉っぱを木につけているので常緑樹だね。」

オー君 「でも、不思議だな。その葉っぱはずうっとつけているのかな。」

モンタ博士 「いい質問だね。常緑樹がいつ葉っぱを落とすかという、特に決まっていないけど、春に葉を落とす木が多いかな。それから、常緑樹の1枚の葉っぱは、2年～5年も寿命のものがたくさんあるんだよ。」

花ちゃん 「なるほど、そういうことですか。ところで、手に持っている葉は何ですか。」

モンタ博士「これはね、『タラヨウ』という木の葉っぱだよ。シロダモと同じように、不思議な手品みたいな理科実験ができるんだ。おもしろいよ。」

オー君 「どうやるのですか。教えてください。」

モンタ博士「そんなの簡単だよ。葉の裏を釘できずつけてごらん。黒く浮き出てくるよ。」

オー君 「よし！花ちゃん。やってみよう。さあ！葉っぱと釘は用意したぞ。」

花ちゃん 「あ！おもしろい！文字が黒くなりますね。」

オー君 「文字だけじゃつままないから、絵も描くぞ。」

モンタ博士「どんどんやってごらん。楽しんでごらん。昔は、こうやって厚い葉っぱをけずって文字を書いたんだろうね。『葉書』というのはこれが語源だね。」

花ちゃん 「なるほど、そういうことですか。でも、今は葉書には使えませんね。」

モンタ博士「ところがどっこい。このタラヨウの葉に住所と名前を書いて、郵便切手をはると、ちゃんと届くんだよ。モンタ博士はもらったことがあるんだ。」

オー君 「へえー。おもしろそうですね。ぼくもやってみようかな。」

モンタ博士「どんどんやってごらん。ためしてごらん。花ちゃんとオー君で、タラヨウの葉書を出しっこしたら楽しいかもね。」

オー君 「そうですね。花ちゃん！やろう。」

花ちゃん 「やりましょう。でも、切手はいくらはればいいのか。どこにはればいいのか。」

モンタ博士「そうだね。それは郵便局の人に聞いてからやってごらん。」

花ちゃん 「そうですね。そうします。」

モンタ博士「ところで、このタラヨウの葉はね、もう1つおもしろい不思議な手品みたいな理科実験ができるんだよ。」

オー君 「ほんとうですか。どうやるのですか。わくわくドキドキです。」

モンタ博士「これは、ろうそくやおせんこうを使うから、大人といっしょにやらないといけないんだ。シロダモの葉の裏をろうそくにかざしてごらん。少しすると色が変化する。それから、おせんこうの火を近づけると丸い黒い輪ができるよ。」

※上の実験の理由は、加熱により酸化酵素が動くためと言われている。このような現象はモチノキ科の植物によく見られるものである。

※タラヨウの葉っぱ実験動画→